

135. 血中サイロキシン測定法の比較検討

都立大久保病院 放射線科

木下 文雄 前川 全
内科

七里 泰 里和スミエ

慶応義塾大学 放射線科

久保 敦司 甲田 英一

〔目的〕 血中サイロキシンの測定は甲状腺機能検査法の1つとして、その価値は高く評価されている。我々は血中サイロキシン kit として相次いで市販された Tetrarorb (Abbott, ダイナボット), Resomat-T₄ (Malinckrodt, 第一アイソトープ), Thyopac-4 (RCC, 科研), Tetralute (Ames, 三共) の4 Kits を用い、その成績の比較検討を試みた。

〔方法〕 対象は放射線科の外来又は入院患者で、正常甲状腺機能、各種甲状腺疾患の症例に就て、Kit ごとに夫々150例前後の血清に就き、サイロキシン量を測定し、又同時に Monitrol I (8.6 µg/100 ml), Monitrol II (16.4 µg/100 ml) のコントロール血清を用いその値も併せ測定し、比較検討した。また Tetrarorb, Thyopac-4 又は Tetralute で夫々測定した全検体血清は比較のためにすべて Resomat-T₄ で同一血清で測定しその相関を見、また50例の検体血清に就てはすべての kits により測定しその値を比較検討した。

〔成績〕 正常者の T₄ 値は Tetrarorb 9.5 ± 2.2 , Resomat-T₄ 9.0 ± 2.0 , Thyopac-4 7.8 ± 2.2 , Tetralute 7.7 ± 2.0 であり、一般に Tetrarorb 値は最も高く、Resomat-T₄ 値はこれにつぎ、Thyopac-4, Tetralute は幾分低い傾向を示し、これは甲状腺機能低下症、他の甲状腺疾患に就ても同様であった。

併し Monitrol I, Monitrol II に就ては、Tetrarorb, Resomat-T₄, Thyopac-4, Tetralute により検査の都度計測したが、孰れも略々指示値前後の値を示し、前述の傾向は認められなかった。

Resomat-T₄ と他の検査法との関係は、尚症例を重ね検討しているが、Tetrarorb とは $r=+0.73$, Thyopac-4 とは $r=+0.94$, Tetralute とは $r=+0.90$ で、孰れも良い正の相関を示した。

〔結論〕 成績の項で述べた如く使用 kit により正常範囲は幾分異なるが、孰れの T₄ もよく臨床総合診断と一致し、優れた成績を得た。

136. PVF sponge を使用した RI dilution method による血清 thyroxine の定量

東京警察病院 中央検査部

稲垣 克彦 松崎 広子 前田 尚広

平野 哲夫

順天堂大学 生化学教室

亀山 恒夫

先に我々は PVF sponge が無機ヨウ素を吸着することなく、甲状腺ホルモンを疎水的に結合する事を明らかにし、PVF sponge を T₃ resin 摂取率テストに応用しうる事を報告した。更に我々は、PVF sponge を用いて血清中の thyroxine の定量を試みたところ良好な結果が得られたので報告する。測定方法としては血清タンパクを使用した RI dilution method を用いた。